

モンゴルの教育事情について

—国際スタンダードとの一致—

The Current Situation of Education in Mongolia: To Match the International Standard

東北大学大学院教育学研究科 井場 麻美

IBA Asami

(Graduate School of Education, Tohoku University)

キーワード：12年制学制への移行、政府主導の高等教育政策、モンゴル、

モンゴルとは

モンゴルは、ロシア及び中国と国境を接し、日本の約4倍の国土面積を有する共和国である。人口は昨年2月に300万人を超え、総人口の半数近くが首都ウランバートルに居住している。公用語はモンゴル語であるが、カザフ人居住区である西端のバヤンウルギー県ではカザフ語の使用も認められている。宗教はチベット仏教が大多数を占め、シャーマン信仰も盛んであり、また多くのカザフ人はイスラム教を信仰している。長らくソ連の傘下に入り人民革命党の一党独裁による社会主義政策を採っていたが、1990年に複数政党制を導入し、流血なく民主化した。

民主化移行後は、日本を始め欧米諸国等を第3の隣国とし友好関係を構築している。日本はモンゴルにとって最大のODA供与国であり、日本が先導してモンゴルのインフラ整備等の事業を進めてきたほか、人口に対する国民一人当たりの日本への留学機会が世界第1位を誇る留学大国である¹。民主化移行期はロシアからの支援が打ち切られ、教育等の国内事情が逼迫していたこともあり、日本だけではなく様々な国へ留学を経験した者が多く、留学経験者が今のモンゴルを形成していると言っても過言ではない。

モンゴルの初等中等教育制度

モンゴルの学制は、ソ連（当時）の10年制学制(5・3・2)の流れを汲んでおり、1998-1999年度から11年制学制(5・4・2)、2014-2015年度から12年制学制(5・4・3)に移行した。義務教育は中学校

¹ 在モンゴル日本国大使館ホームページ <http://www.mn.emb-japan.go.jp/>

までの9年間である。

2010年以降、初等中等教育課程において教育カリキュラムを国際スタンダードに合致させるための改革が実施されており、現在はケンブリッジカリキュラム導入の試行²の失敗を経て、日本を含めた複数国のカリキュラムを参考にした子ども中心のコアカリキュラムの導入を全国で実施中である。

12年制学制への移行と留学

国際スタンダードに合致させた12年制学制に移行したことにより、12年生後の高等教育においても、制度だけではなく教育内容の国際スタンダードとの合致が早急に要求されることとなった。モンゴルでは、中等教育課程卒業後に海外の大学への進学を希望する者が人口に対して多い。12年制学制移行以前は、モンゴルの中等教育課程修了後に海外の大学へ進学する者は、就学年数が足りないためモンゴルの大学に1~2年通わなければならなかった。12年制学制移行後は、中等教育課程修了直後に間を置くことなく海外の大学への進学が可能となり、実質的にモンゴルの大学への進学者数が大幅に減少することになる。

12年制学制という国際スタンダードに合致させたことにより、モンゴルの大学が、教育の専門性の向上、魅力的な学び場としての機能及び質の向上、教育の質保証の確保を早急に求められることとなったのは、国際スタンダードが国内スタンダードよりも高く評価され上位に位置するアジア諸国に見られる特有の例である³。日本を含むアジア諸国においては、ケンブリッジカリキュラム⁴、国際バカロレアカリキュラム(IB)⁵、アドバンストプレイスメント(AP)⁶等の国際スタンダードまたは国際カリキュラムを高く評価し、自国の教育改善等のために利用している。日本ではIB、モンゴルではケンブリッジカリキュラム、中国ではAPが国内学校のカリキュラムとして導入されている。

12年制学制への移行にともない、国立学校に比べ比較的高い教育レベルを提供している私立学校では、海外の大学への留学に向けたカリキュラム構成に力を入れている。例を挙げると、新モンゴル学園では日本の大学への留学に向けた日本語及び留学生試験対策を実施したり、オルチロン学校では英語圏の大学への留学に向けケンブリッジカリキュラムを採用していたり、ホビー学校では米国の大学

² 2010年以降、グローバル化の波を受け、モンゴル語と英語のバイリンガル教育を推し進めることで教育改革を行う試みが始まった。ケンブリッジカリキュラムが多くの国々で導入されている点、英語で授業が行われる点、取得可能な大学入学資格や学習内容が国際的に認められ教育の質が保証される点、本カリキュラムは教科毎の導入が可能であり、学校運営が柔軟にできる(ケンブリッジのディプロマだけではなく、モンゴルの中等教育修了証も取得可能)点を評価し、ケンブリッジカリキュラムを全国的に導入することを決定したものの、政権交代により頓挫した。

³ 小川佳万「アジアにおける学校改善と教師教育改革に関する国際比較研究」、平成24年度~平成26年度科学研究費補助金(基盤研究(B))、2015年。

⁴ ケンブリッジ国際検定ホームページ <http://www.cie.org.uk>

⁵ 国際バカロレア機構ホームページ <http://www.ibo.org/>

⁶ カレッジボードホームページ <https://www.collegeboard.org/>

への留学に向けアドバンストプレースメント (AP) を導入していたり、エリート学校では英語圏の大学への留学に向け国際バカロレアカリキュラム (IB) 認定校として IB コースを開設したり、トルコ学校ではトルコ及び英語圏の大学への留学に向けた特別な語学コースを有していたりと、多岐にわたる。

モンゴル政府は各国へのモンゴル人留学生数を増加させるべく尽力しており、インド政府、ハンガリー政府、ブルガリア政府、フランス政府、イタリア政府等と政府奨学金留学生数の確保及び拡大につき協議し合意に至っている。モンゴル政府は、12年制学制への移行により、モンゴルの大学の質向上のために早急に措置を講じなければならなくなったものの、国際スタンダードである12年制学制に合致させることで海外の大学への留学機会を拡大し、海外にて優秀な人材を育成することに熱心であることが伺える。

モンゴルの高等教育機関

モンゴルの高等教育は、1942年のモンゴル国立大学の設立に始まる。それまでは仏教院以外に正式な教育機関が存在しなかった。モンゴル国立大学の設立から、徐々に研究所等の高等教育機関が設立されていき、1992年の民主化以降は急激にその数が増えた。当初7校のみであった高等教育機関は1年のうちに39校に増え、6年後の1998年には104校に到達。2002-2003年度にかけては最も多い185校となったが、多くの私立大学において教育の質が問題となり、政府が主導して高等教育機関の縮小・統合が実施され、2015-2016年度の時点では100の高等教育機関(国立17校、私立78校、外国大学の分校5校)が存在している⁷。

モンゴルの高等教育機関は大きく分けて3種類に分類される。1つは И х С у р г у у л ь (イフ・ソルゴリ：総合大学)、2つめは Д э э д С у р г у у л ь (デード・ソルゴリ：専門大学)、3つめは К о л л е ж (コレッジ：カレッジ)である。総合大学では、幅広い基礎・応用研究が行われ、ディプロマ課程(学士課程3年目で授与されるもの)、学士課程、修士課程、博士課程を開設可能である。専門大学では、専門的な分野の研究が行われ、ディプロマ課程、学士課程、修士課程、カレッジでは、ディプロマ課程、学士課程のみ開設可能である。

モンゴルの大学入学者選抜試験は、2006年度より大学毎の試験から全国統一試験となった。希望する大学の専攻課程によって受験科目及び合格点は予め設定されている。学生は10科目(モンゴル語、英語、ロシア語、現代社会、モンゴル史、地理、化学、物理、生物、数学)の中から指定科目を受験し志望大学が設定している以上の得点を獲得することが必要となっている。

高等教育機関数の大部分は私立大学が占めているものの、全学生の6割は国立の高等教育機関で学んでいる。専門分野に関しては、経済やビジネス分野が学生の人気が高い。モンゴル政府は豊富な鉱

⁷ モンゴル教育・文化・科学省ホームページ <http://www.meds.gov.mn>

物資源を生かす工業分野を成長させるべく、工学系の学生を増やすことを政策課題の一つとしているものの、工学系の分野は人気が高く、政策と学生の要望がマッチしていないのが現状である。

モンゴルの高等教育カリキュラム

モンゴルの高等教育の目的は、「政府の教育政策に合致した教育基本原則、国際社会における学問を市民に提供する」こととされており、つまりモンゴルの高等教育機関は、学問の自由を謳った研究機関というよりは、中等教育課程の延長線上にある教育機関といったほうが適切である。モンゴルには研究機関は別に存在しており、大学は専門性を高めるための教育機関である。

モンゴルの学士課程の構造として、一般教養科目、専門基礎科目、専門科目がある。一般教養科目が共通教育となっており、通常6割が必修科目、4割が選択科目となっている。英語、情報技術、体育、リスクマネジメント(起こり得るあらゆる災害に対する対処法や心構えについて学ぶ科目。講義形式の授業)の4科目がほぼ全ての大学で行われている共通教育科目である。一般教養科目、専門基礎科目、専門科目についても、必修科目の割合が大きい。また、どの学年の、どのセメスターに、どの科目を履修するのかということが細かく定められており、学生の裁量で選択できるカリキュラムの範囲がかなり少ないということが窺われる⁸。また、教員養成課程⁹は多くの大学で設置されているが、モンゴルでは教員免許は開放制教員養成制度¹⁰ではなく、教員養成課程を卒業しなければ教員免許を取得することは不可能である。

モンゴルの高等教育の未来

モンゴルの高等教育は、社会主義国として独立した際に当時のソ連からの支援及び指導を受けて始まったため、現在でも国際援助機関及び他国からの支援で成り立っている要素が強く、政府主導で行われている。国立大学の学長の任免権は教育・文化・科学大臣にあり、大学の学長には研究者ではなく官僚が任命される場合もある。学生は大学で何を学ぶべきか、教授は何を研究することが望まれているか、大学はどのような組織であるべきかについては、国家の教育方針によって決定される面が大きく、このことは政府主導の高等教育の証左である。

モンゴルでは政権交代による関連機関職員の総入れ替え等の事例があったりすることから、教育全般に対する公正な評価の実施及び質の担保の継続は難しい。本年の総選挙の結果によっては、今まで蓄積してきた初等中等課程における教育カリキュラム改革、高等教育における工学系人材の育成政策等が一からやり直しになる可能性も否めない。

⁸ モンゴル国立大学経済学部カリキュラム 2012。

⁹ モンゴル国立教育大学・モンゴル研究学部カリキュラム 2011。

¹⁰ 教育学部など教員の養成を主な目的とする学部以外でも、教職課程を追加的に履修し、所定の単位を取得すれば、教員免許状を取得できる制度。

目覚ましい経済発展を遂げたモンゴルが、他国からの援助依存から脱出するためにも、高等教育の内容を充実させ専門的人材を育成し、モンゴル独自で自国の産業を発展させるべく取り組むことが急がれる。これは、海外留学によるモンゴルの優秀な人材の流出を防ぐことにも繋がる。12年制学制への移行という国際スタンダードへの合致によって、海外への大学の留学機会を拡大する措置を講じながら、国内大学の質を向上させるという2つの大きな課題に取り組まざるを得なくなったモンゴルの今後の動向が注目される。